

病院の実力「人工関節」

医療機関別2013年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	総手術数(件)	人工膝関節(件)	人工股関節(件)	処置が必要な合併症の割合(%)
苑田会人工関節セ	723	601	122	1.4
玉川	674	3	671	0.1
江戸川	384	271	113	0
JR東京総合	371	101	270	2.7
東京医科歯科大	316	125	191	1.6
慈恵医大	307	118	189	1.0
東京大	272	131	141	0.7
東邦大大森	254	168	86	0
日大板橋	248	166	82	1.6
慶応大	227	85	142	0.4
順天堂大	225	91	134	0.9
駿河台日大	207	162	45	0
国立国際医療研究セ	206	128	78	2.4
昭和大	204	85	119	1.5
都立多摩総合	200	120	80	1.5
北里研究所	198	100	98	0.5
東京女子医大※1	189	108	81	1.1
東京医大	181	91	90	1.1
杏林大	178	96	82	0
国・東京医療セ	173	61	112	1.2
順天堂大練馬	164	26	138	1.8
国・村山	161	89	72	0.6
NTT東日本関東	155	79	76	0.6
東邦大大橋	141	79	62	4.3
帝京大	141	48	93	2.1
赤羽中央総合	134	121	13	0
東京女子医大東	129	75	54	0.8
厚生中央	125	74	51	0.8
東京警察	124	71	53	—
慈恵医大第三※2	122	41	81	3.3
順天堂大東京江東高齢者	106	80	26	0
国・災害	101	57	44	5.9
河北総合	99	70	29	0
樺島	96	35	61	4.2
共済立川	96	31	65	2.1
聖路加国際※2	94	56	38	4.3
都立大塚	94	53	41	3.2
新葛飾	87	64	23	—
虎の門※2	86	32	54	1.2
高木	84	71	13	~3(推定)
済生会中央	84	18	66	1.2
武蔵野赤十字	80	40	40	2.5
都立駒込	74	38	36	1.4
多摩北部	73	55	18	1.4
永生	71	45	26	1.4
都健康長寿	65	35	30	1.5
東京白十字	60	49	11	6.7
稲城市立	51	40	11	0
高月整形外科	16	16	0	—

東京

病院の実力

人工関節 術後の合併症に注意

今回は「人工関節」を取り上げる。人工関節は、加齢や病気で傷んだ関節の代わりになる、金属やポリエチレン製の人工物だ。紙面では、人工関節の中でも代表的な「人工膝関節」と「人工股関節」に置き換える手術数(関節数)を聞き、その合計数も示した。

人工関節手術では、感染

や脱臼などの合併症が問題となる。滅菌された手術室や、正確かつ安全に人工関節を入れるための医療システムを使うなどして予防に努めているが、医療機関で合併症の発生率が異なる。手術後の処置が必要となった合併症の割合を示した。

人工膝関節が必要となる代表的な病気は、「変形性膝関節症」だ。加齢で軟骨がすり減り、膝関節が変形して痛みが生じる。まずは運動や減量、ヒアルロン酸注入などの治療を行い、骨の一部を切って変形を矯正することもある。それでも

改善されない場合、傷んだ関節の表面を切除して、人工関節に置き換える。一方、人工股関節手術を行う主な病気である「変形性股関節症」は、生まれつき関節がずれていたりすることなどに加齢が重なって痛みが表れる。

人工関節を入れたからと言って、若い時の健康な脚に戻るわけではなく、回復度合いは手術前の脚の状態に左右される。特に膝関節では、手術直後から行うリハビリが回復を早くさせるため、リハビリの指導を十分に受けられるかも、病院選びのポイントとなる。

「国・」は国立病院機構。「セ」はセンター。「—」は無回答または不明。調査は、全国の地方厚生局に2012年の人工関節手術数を届け出た医療機関が対象。
 ※1 リウマチ科(2013年1~12月)と整形外科(2013年4月~14年3月)の合計数
 ※2 2013年4月~14年3月の実績